

港区まちづくりビジョン(案)及び港区地域福祉に関する基本計画(改定案)についてのパブリック・コメントに対する意見と港区の考え方

1. 港区まちづくりビジョン(案)に対する意見と港区の考え方

第3章 区の将来像について

意見	港区の考え方
住民同志のつながり強く地域活動が活発なまちとの事 私今の処に引越してきて2年になります。まだ町会のことはわかりません。町会費、社会協議費、日本赤十字等支払、回覧板は回ります。地域活動については掲示板を見るくらい。この様に私については、絆つながり等ありません。見知らぬ人と出会ってもあいさつはされます。前の処よりは良好。大規模な集客文化施設をはじめ歴史文化観光資源等年間200万人以上が訪れる地区の強みはあります。訪れたい魅力と活気あふれるまちづくりに合致するものと思います。45年もの年月を費やし地域の「つながり」や「きずな」による豊かなコミュニティづくり地域活動協議会による縦系の推進化、区政運営の横系が交わる強いネットワークで港区に相応しい区民全体のまちづくりが進行しております。	「港区将来ビジョン」に基づき、区政会議など区民の意見を反映する区政運営を横系として、各小学校区の「地域活動協議会」を中心とした自律的な地域活動を縦系として、横系と縦系が交わる強いネットワークで、港区にふさわしい区民主体のまちづくりをめざしています。 特に防災の分野で地域防災力の強化など取組の成果が出てきていると考えています。引き続き港区にふさわしい区民主体のまちづくりを進めます。
「子供の学び」と「子育て世代」を応援するまちづくりという所が気になる。子供達の学力・体力の向上をというわりには、評価のしかたや受験の方法ばかりいじってじっさいの子供にかかわることをおろそかにしてる気がする。	核家族化が進み人間関係が希薄化することによる家庭や地域における教育力の低下が問題となっており、学校・家庭・地域が連携して、子どもの生きる力を育むことが求められています。区では、子どもの学力・体力の向上のため、学校園と連携し、区の特性や強みを活かした取組みを行うとともに、家庭学習を促進しています。また、外遊び・スポーツ・野外活動など五感を使った体験活動や体験学習、職業体験、子どもの読書活動など、学校・家庭・地域と連携した様々な機会を提供していきます。
区の将来像を「住」メインとしているとおり「まちづくりの5つの柱」には5つ目の柱にわずかに「活気あふれるまちづくり」とある以外はすべて「住む・暮らし等」にまつわっている。しかしながら「働く」を省いて「住」は考えられず。「活気あふれるまちづくり」はありません。ビジョン策定の過程で「働く」視点がなかったことは大きなミスと言えます。 働く場所の創生や企業の誘致など、「働く」視点がまちづくりの柱にない状態で、若い人口の増加は望めないと思います。今からでも「働く場所の創生」などをビジョンのトップに据えるべきであろうと考えます。	平成24年7月に策定された「大阪市政改革プラン」では、「成長は広域行政、安心は基礎自治行政」という考え方を基本に、広域行政と基礎自治行政の役割分担を明確化することが必要とされています。 「雇用の機会創生」や「企業誘致」等につきましては、基本的には広域行政の役割となることから、港区役所では基礎自治行政の役割の中で「まちづくりビジョン」の策定を進めています。なお、第4章5「訪れたい魅力と活気あふれるまちづくり」に港区の魅力ある地域資源を広く周知、活用しながら、地域、商店、企業等の様々な主体が連携協働する機会の提供を行い、ビジネスチャンスにつなげることで地域の活性化を図るため、「商工業者へのビジネス機会の提供」や「地域や事業者等と連携した商店街等による取組の支援」を掲げています。

第4章 まちづくりの方向性「1区民主体のまちづくり」について

意見	港区の考え方
この度、大阪みなと中央病院や図書館などが地下鉄の駅前へ移転すると聞きました。併せてホールも併設される建物が出来ると伺いましたが、このホールは音楽専用ホールなのでしょうか。 港区には、音楽専用の練習室やホールがありませんし、現行の区民センターも音楽専用のホールではありません。 そこで、音楽専用のホールを併設して「(音楽のまち) みなとく」との港区まちづくりビジョンを提案させていただきます。 次に、ホールの稼働率を高める施策として、「この音楽専用ホールを拠点に活動する音楽する音楽サークルを募集し、その活動の場を提供する。」のはいかがでしょうか。 「ホール」と「市民学習センター」との共同的運営、連携も一つの方法と考えます。また、この音楽サークルは必ずしも港区民である必要性はないと思います。更に音楽サークルとして望まれる音楽専用ホールの設計や規模の一例として、西宮市の甲東ホールを紹介いたします。 このような設計や規模の音楽専用ホールを多くの方が望んでいます。また、立地や交通の利便性からも、多くの利用が見込まれます。	港区では、震災からの復興と高潮への対策を主な目的として昭和23年から平成4年までの約45年間にわたり区域の約9割で区画整理事業を実施してきました。この区画整理事業を記念する事業として、港区のまちづくりのあゆみを後世に伝えるとともに、市民の文化・交流活動の場の整備をめざし、これまで様々な検討を続けてきました。 本年3月には「(仮称)区画整理記念・交流会館基本構想」が策定され、(仮称)区画整理記念・交流会館内に整備するホールは、演劇やコンサートのほか、講演会や大規模なセミナー、展示会、発表会、フリーマーケットなど、幅広い世代の人たちが区内外から集まる、多様な使用ができる柔軟性の高いホールを設けることとしています。 特定の目的に限定したホールとしないことで、幅広い世代が利用し、交流する利用率の高いホールをめざします。なお、多目的利用を目的としながらも可能な限り音響など音楽活動にも配慮した仕様に努めます。 また、さまざまな団体やグループ、個人が交流し新たな活動が展開されるよう、区内外を問わず多くの方に利用していただける場を提供します。
少子高齢化や核家族化が進む中で地域活動の担い手が高齢化するとともに、一部の担い手に役割が集中し負担感が大きくなり後継者不足につながっています。東部では大型マンションの建設によって新たな住民が増加し地域活動の参画を望まない人も増えるなどコミュニティ意識の希薄化が懸念されています。活動参加20.9%、いいえ79.1% 24年11月～25年3月全11校区地域活動協議会設立：区民モニターアンケート知らない48.8% 町会活動とあまりしっかり行っていない。バラバラでつながりがない。11校区でつながりがありますか。	各小学校区において、地域住民による自律的、持続的な地域運営の実現に向けて、地域団体やNPO、企業などさまざまな活動主体が幅広く参画し、地域特性に応じた課題の解決に協働して取組む「地域活動協議会」の活動を促進しています。また、「地域活動協議会」における民主的で開かれた組織運営や会計の透明性の確保、自主財源の確保、法人格の取得など社会的信用を高めるための取組を、まちづくりセンター(地域活動協議会の運営等を支援する中間支援組織)を活用して支援しています。自律的、持続的な地域運営のため、自主財源の確保やコミュニティ・ビジネスやソーシャル・ビジネスを、まちづくりセンター(地域活動協議会の運営等を支援する中間支援組織)を活用して促進するとともに、本市事務事業の社会的ビジネス化を図り、地域における雇用の創出や人、モノ、カネ、情報などの資源の循環をめざしています。 また、まちづくりフォーラムや防災フォーラムを開催するなど、各地域の連携した取組を促進するような機会の提供に努めています。
地域活動協議会はどんな人たちが運営しているか自体一般の市民は知らないと思う。	
住民どうしのつながりが強く地域活動が活発なまち、一見いいように聞こえますが半面、改革をしようとする、地の人間の反発、若い人が入れないような地盤を感じます。	
ビジネス的手法の導入などで自主的財源の確保を図り、自律的、持続的な地域運営を促進これは大賛成です。補助金を目当てにそれに縋っている人もいるのが現実です。(ガラス張りにしなくてはいけない)	
第4章1にも書いたように補助金に頼らず自分たちで考える又ガラス張りにしていく	

第4章 まちづくりの方向性「2安全・安心・快適なまちづくり」について

意見	港区の考え方
自助・公助の地域防災力の意識の中でも図上訓練(こんなんつまらん)避難訓練(個々に行ってくれ)との発言する町会長もいる。美化運動を促進するように、私は子供達も種から育成するように心がけています。	本格化する少子・高齢化社会の中で、子育て支援や高齢者の見守り・防災など身近な生活課題の解決に住民どうしが協力して取り組むためには、「つながり」や「きずな」による更に豊かな地域コミュニティが必要となっています。今後、弁天駅前土地区画整理記念事業の進捗などにあわせて、港区に更に豊かなコミュニティの醸成をめざします。
防災から公園など避難場所となる所は断水した場合でも優先的に水が通る別系統なものが出来るのであれば少しづつでも改善していただきたいです。	広域避難場所に指定されている公園に対し、飲料用耐震性貯水槽(貯水量:400m3)を順次設置しています。港区を避難圏域とする広域避難場所である八幡屋公園には既に飲料用耐震性貯水槽(貯水量:400m3)を設置しています。
災害時、橋が利用出来なくなった時の応急措置の方法を想定しておくことが必要だと思います。大阪市は川や水路が多いのがメリットであり、デメリットにもなり得ると思います。	港区では、港区の特性を踏まえた防災対策を強化するため、大阪市地域防災計画をもとに、港区独自の防災計画を策定しています。港区は、三方を海と川に囲まれ、津波や高潮の被害を受けやすい地勢にあることを踏まえつつ、大規模災害時に自助・共助・公助の役割分担のもと、迅速かつ的確に対応が行えるよう、区役所はもちろん防災関係機関の業務を包含するなど、防災力の向上に努めています。
上に連動して、大規模火災など発生した場合、消防車が入れない時の為、緊急時の消火設備や消防士以外の消防人員を用意する必要があると思います。	なお、港区では、港消防署と連携して、大規模災害時に区内各所に配備してある可搬式ポンプにて初期消火活動を行っていただく地域防災リーダーの育成に努めています。
今回の地震でも船の有効利用が大事だと再認識出来たと思います。船なら地震の直接的な影響はないので安心です。国レベルの話だと思いますが少し大型の防災船など必要なのではと思います。普段は医療や修学旅行などに使ってもらい災害発生時は優先的に災害地に向かう様にします。	なお、橋が利用できないなど施設が壊滅的な被害を受けた場合は、広域的な支援を要請することになると考えています。

意見	港区の考え方
交通事故防止のために、信号の位置を見直してほしい場所がある。	信号機は、大阪府公安委員会が設置し管理することになっており、警察がその事務を行っています。交通事故を防ぐための信号設置場所の見直しに関しては、警察が事故発生状況や道路条件などを総合的に判断していますので、具体的な場所を教えていただければ、所轄警察署にお伝えします。
港区の花がひまわりとのことですが、あまり見かけません。そこで区内の可能な限り歩道脇か歩道と道路境の部分に植え付け可能にし、近辺の住民に種化苗を植えてもらって近辺の住民によって水やり、管理をしてもらえればと思います。夏のヒートアイランド効果も少しはあると思いますし、住民のつながりや気持ちも豊かになると思います。実った種もいろいろ活用できると思います。"輪になろうキャンペーン"	港区では、区民ボランティアの皆さんによって八幡屋公園や区役所・学校など公共施設、花の海遊ロードなどさまざまな場所で花と緑のまちづくり活動に取り組んでいただいております。港区の花「ひまわり」も、花の時期にあわせて植えつけ・管理を行っていただいております。今後もより多くの場所にひまわりを飾っていただけるよう、区民の皆さんとの協働による花と緑のまちづくりに取り組んでまいります。
公園が小さい！特に弁天に大きな公園を作してほしい	都市公園は、都市公園法や大阪市都市公園条例等に基づき設置されており、大規模公園を新たに設置することは困難です。 一方、身近な地域活動や新たな都市魅力の創造といった多様なまちづくりにも活用できる貴重な都市空間であることから、区役所としての役割である基礎自治行政の推進という立場で公園運営に地域住民の意見やニーズを反映していきます。

第4章 まちづくりの方向性「3健やかにいきいきと暮らせるまちづくり」について

意見	港区の考え方
高齢者が健やかに暮らせるためには生きがい的大事 たくさんの肩書を持って離さない地域の高齢者もいるが、肩書がなくても毎日、公園の掃除をしている高齢者もいます。	だれもが安心して自分らしく住みなれた地域で暮らしていくためには、住民や行政をはじめ、地域団体や市民、NPO、商店街や企業などの多様な主体が力をあわせて生活をともに楽しみともに支えあう地域をつくりあげていく必要があります。 地域において、多様な主体による介護予防活動やサロン活動などを促進し、高齢者等の参加者自身が担い手にもなることで、高齢者が役割や生きがいを持って暮らしていけるような地域社会づくりをすすめてまいります。
工場商店が減少して働き場所がなくなって、特に中高年の働き場所がない。働いている方がお小遣いも入るし元気も出ます。週2日～3日、時間も1日3時間～5時間くらい多様性のある仕事を作る方向を考えられないでしょうか。市・区・民間企業も海遊館、介護関係などでも含めて、仕事を作ってほしいです。	ご意見にある短期的な就業形態では、(公財)大阪市シルバー人材センターでの就業や有償ボランティアによる活動があります。 大阪市では、有償ボランティアとして「子育てを援助してほしい人」と「子育てを援助したい人」を会員として互いに子育てを支え合う「大阪市ファミリー・サポート・センター事業」を実施しています。

第4章 まちづくりの方向性「4「子どもの学び」と「子育て世代」を応援するまちづくり」について

意見	港区の考え方
「子どもの学び」という件について、私は学力だけでなく遊びの中から学ぶという事で、今ある公園を幼児用と小学生、中学生の2つに分けたらどうかと思います。 1つはブランコ、すべり台などある公園、1つはドッチボールなど出来るグラウンド用に。	都市公園は、都市公園法や大阪市都市公園条例等に基づき運営されています。貴重なオープンスペースである一方、身近な地域活動や新たな都市魅力の創造といった多様なまちづくりにも活用できる貴重な都市空間であることから、区役所としての役割である基礎自治行政の推進という立場で公園運営に地域住民の意見やニーズを反映していきます。
子供を自宅であずかるという事業があるが、子育てが終わった世代が、子供を預かるにはいろいろと自宅では問題があると思う。区で預かる場所を提供してほしい。	公募で大阪市から選定された「子ども・子育てプラザ」に子育て支援講座や親子イベントの開催、親子のつどいの広場等を委託しています。そのプラザでは保育ニーズに対応するため、子どもを預けたい方と預かりたい方をマッチングして地域で助け合う「ファミリー・サポート・センター事業」も実施しています。預かりたい方への研修や、定期的な会合の実施などプラザによる丁寧なマッチングを行い、安心して預けることができるよう指導をまいります。

第4章 まちづくりの方向性「5訪れたい魅力と活気あふれるまちづくり」について

意見	港区の考え方
人の流れが駅と海遊館の間をほとんど往来しているだけの状態などで商店街などは活気がありません。商店街などではもう少し街頭販売などで食べ歩きしやすく、手持ちしやすい工夫をお願いしたいです。	築港・天保山エリアには、海遊館など多様な歴史・文化・観光資源があり、年間200万人以上が訪れていますが、それがまちのにぎわいや活性化に直接つながっていません。 今後、観光施策と連携して、民間活力の積極的な活用などによる築港・天保山エリアの活性化に向けて関係部局とともに検討を進め、エリア全体の賑わいづくりに取り組んでいきます。
築港地区を周遊してもらう為にも、西のダイヤモンド・ポイント、東の渡船場の横の場所、南の港大橋の見える広場に芝生広場やカフェなど整備して頂きたいです。	築港・天保山エリアでは、H26、H27年度において案内誘導計画の策定やガイドブックの作成、案内表示板の設置等を行い回遊性の向上に取り組んでいます。 また、ご意見をいただいた箇所など当エリアにある多様な資源を活かすため、民間活力の積極的な活用などによる築港・天保山エリアの活性化に向けて関係部局とともに検討を進め、エリア全体の賑わいづくりに取り組んでいます。
天保山公園の桜のある北側は良く利用されていますが、高台を含め、南側はうす暗く利用者が少ないので再整備をお願いしたいです。	

意見	港区の考え方
水上の市バスがあれば便利だと思います。まずは中之島から海遊館まで試してはと思います。北港や舞洲に行くのに大回りしなければならないのでコスト的に可能なら大変便利です。	海と川をつなぐ舟運については、大変重要であると考えており、築港・天保山エリアの魅力の発信と創造のためにも、今年度に海と川をつなぐ舟運の社会実験を予定しています。
仕事を区内に創生して、職住接近の若い人たちであふれる、高齢者の安心できる「活気ある街」を目指しましょう。	平成24年7月に策定された「大阪州市政改革プラン」では、「成長は広域行政、安心は基礎自治行政」という考え方を基本に、広域行政と基礎自治行政の役割分担を明確化することが必要とされています。 「雇用の機会創生」や「企業誘致」等につきましては広域行政の役割となることから、港区役所では基礎自治行政の役割の中で「まちづくりビジョン」の策定を進めています。なお、第4章5「訪れたい魅力と活気あふれるまちづくり」に港区の魅力ある地域資源を広く周知、活用しながら、地域、商店、企業等の様々な主体が連携協働する機会の提供を行い、ビジネスチャンスにつなげることで地域の活性化を図るため、「商工業者へのビジネス機会の提供」や「地域や事業者等と連携した商店街等による取組の支援」を掲げています。

意見	港区の考え方
築港地区についてご意見いたします。 地区全体を周遊してもらう為に、特に景観の良い西のダイヤモンド・ポイント、東の天保山公園、渡船場横から梅田方面を望む景色、南の南港大橋の前の広場を中心に外周をめぐる観光案内を積極的にお願ひしたいです。 外周を整備して「サンフラストリート」とか「サンセットストリート」など親しまれる名称を付けてそれぞれの広場で定期的にみなトクモンなどの食のフェスタなど開催してほしいです。 雰囲気づくりもとても大事だと思いますので港大橋や天保山大橋をもっと鮮やかに変化するライトアップを隣接区にも協力頂いて明るく楽しい街づくりを期待します。	築港・天保山エリアでは、H26、H27年度において案内誘導計画の策定やガイドブックの作成、案内表示板の設置等を行い回遊性の向上に努めています。 また、天保山まつり、区民まつり等の際に「みなトクモン」関係の出店を促すなど、今後も様々な機会を設けて、より広く「みなトクモン」の周知を図り、港区の魅力をアピールします。 築港・天保山エリアは、大阪都市魅力創造戦略の重点エリアにも位置づけられており、経済戦略局とも連携して戦略的なプロモーションに努めています。 当該エリアにある多様な歴史・文化・観光資源を活かし、民間活力を積極的に活用しながら多様な主体が連携する官民協働によるまちづくりをめざします。
現在ある商店街をもっと活気あふれるものにして、商店を若い店主に貸し出す制度なども作るべきだと思う。	繁栄商店街のワイワイ市場(毎月第1土曜日開催)や八幡屋商店街の音楽イベントなど、地域資源を活用し、地域と連携した商店街の取組みも実施されています。こうしたまちの活性化につながる取り組みに対し、区役所が持つネットワークや情報発信力を活用して、地域や区内外の事業者等と連携し、支援していきます。
みなとくもんにメロンパンを加えてほしいです。神戸ではメロンパンをサンライズといいます。サンセットもあっていいと思います。メロンパンより少し濃い色にし(カステラの表面の様な)、見ようによってはひまわりにも見えると思います。	いただいたご意見は、「みなトクモン発掘レクチャー」(みなトクモンの取組みについて事業者の方や区民の方と話し合う場)でご紹介するなど、今後の参考とさせていただきます。

意見	港区の考え方
港区は交通の便が良く、マンションも増えてきましたが、商店街のイベントにしてもほとんど一過性にすぎず、後の消費に繋ぐかと思うがなかなかビジネスにはならない。 役員の数のほうが多い場合もある。	繁栄商店街のワイワイ市場(毎月第1土曜日開催)や八幡屋商店街の音楽イベントなど、地域資源を活用し、地域と連携した商店街の取組みも実施されており、こうしたまちの活性化につながる取組みに対し、区役所が持つネットワークや情報発信力を活用して、地域や区内外の事業者等と連携し、支援しています。
にぎやかな場所づくり、弁天町オーク200イベントをやってますがプラス ビルコン、町コン、合コン等人口が増えるように結婚する機会作りを区役所も協力を考えてほしい、ホテル宴会係は具体的に知ってますので民間との協力関係も考えて欲しいと思います。実行あるのみと思います。	港区の居住人口を増やすため、区役所としても、港区の魅力を区内外に発信し、まちの活性化を図る取り組みを進めていきます。 今後、子育て世代等の居住促進や居住人口増に資する取組み等を実施する団体等があれば、区役所が持つネットワークや情報発信力を活用して、地域や区内外の事業者等と連携し、支援していきます。
区民の意見の集め方に問題があると思う。現在ある人の集まる場所となるべく簡単に意見を集められる方法を考えるべき	区民の意見・ニーズを把握し、区の事業実施や施策への反映に活用するため、区政会議や区政モニターアンケートなど様々な手法により多様な区民意見やニーズを的確に把握するよう努めています。

第5章 区民の意見を反映した区政運営について

意見	港区の考え方
市岡商業高校跡地等に企業の誘致(仕事の創生)や、住民増加に直接つながる「集合住宅(マンション)」等の建設誘致を目指してはどうでしょうか？	市岡商業高校跡地につきましては、平成26年11月に大学の設置等を条件に入札を行いました。申込みがありませんでした。当該市有地は教育委員会所管の処分予定地です。現在、今後の方針について検討中です。

その他全般

意見	港区の考え方
その他全般 28年～31年4年間 一時にまとめることなく、せめて2年間(2回)あて諸修正していくほうがよいのでは。	平成25年3月に策定した「港区将来ビジョン」に基づく施策等の進捗を踏まえて、平成31年度末までのまちづくりの方向性を示す「港区まちづくりビジョン」として改定を進めています。 このビジョンに基づき、毎年度「港区運営方針」を定めて1年間の取組等についてPDCA的な進捗管理により区政運営を行っています。運営方針は、区政会議をはじめとして区民の意見等を踏まえて作成し、公表しています。
過去は過去として前向きに修正しながら進めてください。	港区将来ビジョンの改定については、現在の港区状況や区の特性・課題を踏まえて、平成31年度末までのまちづくりの方向性を示す「港区まちづくりビジョン」として改定を進めています。

意見	港区の考え方
少子高齢化問題をもっと具体的に考えて解決策も考えるべき。今の日本は子供を生んで育てるには問題がありすぎ！	現在、国や大阪市等において人口減少や少子高齢化により発生する諸課題に解決するため「人口ビジョン」や総合的な戦略の策定が行われています。港区でも人口が減少し、少子高齢化が進展しています。港区では、子どもから高齢者まで多世代交流を促進し、地域のコミュニティを更に活性化することで、活力あるまちづくりをめざしています。
若い世代の住民や地域の後継者が少ないのは、区内に働く場所がないのが第1の原因であると思います。働く場所の創生(誘致など)こそが街の活性・町の繁栄につながりと思います。	平成24年7月に策定された「大阪市政改革プラン」では、「成長は広域行政、安心は基礎自治行政」という考え方を基本に、広域行政と基礎自治行政の役割分担を明確化することが必要とされています。「雇用の機会創生」や「企業誘致」等につきましても、基本的には広域行政の役割となることから、港区役所では基礎自治行政の役割の中で「まちづくりビジョン」の策定を進めています。なお、第4章5「訪れたい魅力と活気あふれるまちづくり」に港区の魅力ある地域資源を広く周知、活用しながら、地域、商店、企業等の様々な主体が連携協働する機会の提供を行い、ビジネスチャンスにつなげることで地域の活性化を図るため、「商工業者へのビジネス機会の提供」や「地域や事業者等と連携した商店街等による取組の支援」を掲げています。
人口が増えないとにぎやかにはなれない。結婚したい独身の方も多く居られますが恥ずかしくて本当のこと言えない。親もあまり言わないまま年月がすぎます。人間が増えれば消費も増えますぜひビルコン、町コン実行お願いします。	港区の居住人口を増やすため、区役所としても、港区の魅力を区内外に発信し、まちの活性化を図る取り組みを進めていきます。今後、子育て世代等の居住促進や居住人口増に資する取組み等を実施する団体等があれば、区役所が持つネットワークや情報発信力を活用して、地域や区内外の事業者等と連携し、支援していきます。

港区地域福祉計画(改定案)に出された意見と港区の考え方

第1章 港区地域福祉計画について

意見	港区の考え方
計画としてはとてもよい考えだと思うし、このような冊子にまとめて一般区民の意見を聞こうという事じたいはよいと思うが、実際に問題のある高齢者や障害者、障害者家庭又ひとり親家庭が、こういう冊子を読んで意見を書くひまがあるかという、とてもそんな時間はないと思う。もう少し一般的なもっと簡単な意見の集め方を考える必要があると思う。	地域福祉計画の改定は、重要な計画の変更にあたることからパブリックコメントを実施し、市民等から広く意見等をお聞きしています。 併せて、出前講座、市民の声、区長の出張型ミーティングなど様々な広聴手段を用いて福祉的な課題がある方の意見をお聞きするとともに、福祉施設の連絡会や福祉的な活動に携わる方等により構成される港区区政会議福祉部会において、ご意見をいただくなど、様々な立場の方から広く意見をお聞きするよう努めています。

第2章 地域福祉を取り巻く現状と課題について

意見	港区の考え方
今の子育て世代は自分のことで手がいっぱい、人の事を考える事のできない家庭がふえているような気がする。障害者や高齢者、一人家庭、地域活動についてもっと自分の事ととらえて考える教育を子供の頃からとり入れる必要があると思う。	だれもが地域で安心して暮らしていけるよう、さまざまな福祉ニーズに応え、より身近な地域福祉を各地域の実態に応じて推進するためには、多様な地域福祉活動の担い手が必要です。将来の地域の担い手となる小中学生に対しては、学校において、体験学習等を通じて思いやりや助け合いの心がはぐくまれるよう福祉教育を推進まいります。これまで地域福祉活動の中心的な役割を果たしてきた人達だけでなく、若い世代など地域福祉活動への関わりが薄かった人達も含めて、あらゆる世代の住民が福祉活動に参加できるよう取り組みます。

第3章 地域福祉を進めるための基本的方針について

意見	港区の考え方
若手の地域福祉の参加のために何をすべきかを考えるべきだと思う。もっと地域のための区からの予算の使い方に地域活動をするための若手の人材育成について、できる事に投資していけるシステムも作っていく必要があると思う。	だれもが地域で安心して暮らしていけるよう、さまざまな福祉ニーズに応え、より身近な地域福祉を各地域の実態に応じて推進するためには、多様な地域福祉活動の担い手が必要です。将来の地域の担い手となる小中学生に対しては、学校において、体験学習等を通じて思いやりや助け合いの心がはぐくまれるよう福祉教育を推進まいります。これまで地域福祉活動の中心的な役割を果たしてきた人達だけでなく、若い世代など地域福祉活動への関わりが薄かった人達も含めて、あらゆる世代の住民が福祉活動に参加できるよう取組みます。

第4章 施策の展開について

意見	港区の考え方
昔にくらべて確かに色々な地域福祉活動がおこなわれるようになったが、ふれあい喫茶などはもっと広くボランティアなどを利用し老若男女誰もが広く世代交流ができるような場にするような努力をしていく人材を育成する必要があると思う。	これまで地域福祉活動の中心的な役割を果たしてきた人達だけでなく、若い世代など地域福祉活動への関わりが薄かった人達も含めて、あらゆる世代の住民が福祉活動に参加できるよう取組みます。 また、サロン活動や介護予防活動といったさまざまな地域福祉活動やボランティアの情報の集積・発信をするともに、地域福祉の担い手の発掘や育成を促進します。

第5章 地域福祉計画の推進にあたって

意見	港区の考え方
若者の参加が大切だと思う。子供の頃から地域福祉についての教育を子供の頃からおこなう必要があると思う。	だれもが地域で安心して暮らしていけるよう、さまざまな福祉ニーズに応え、より身近な地域福祉を各地域の実態に応じて推進するためには、多様な地域福祉活動の担い手が必要です。将来の地域の担い手となる小中学生に対しては、学校において、体験学習等を通じて思いやりや助け合いの心がはぐくまれるよう福祉教育を推進まいります。これまで地域福祉活動の中心的な役割を果たしてきた人達だけでなく、若い世代など地域福祉活動への関わりが薄かった人達も含めて、あらゆる世代の住民が福祉活動に参加できるよう取組みます。